

第3回中国圏・四国圏広域地方計画合同協議会 議事要旨

■日時:平成 27 年 12 月 14 日(月)14:00～15:30

■場所:リーガロイヤルホテル広島 4階 ロイヤルホール

1. 開会

配布資料

資料 1 中国圏・四国圏広域地方計画合同協議会資料 両圏域間の連携施策

資料 2 中国圏・四国圏広域地方計画合同協議会資料 両圏域間の連携施策 概要版

参考資料 1 中国圏・四国圏広域地方計画 想定スケジュールイメージ(案)

参考資料 2-1,2-2,2-3 新たな中国圏広域地方計画 中間整理

参考資料 3-1,3-2,3-3 新たな四国圏広域地方計画 中間整理

参考資料 4 学識者からの計画内容に関する主な意見

参考資料 5 国土形成計画法令(抄)

参考資料 6 中国圏・四国圏広域地方計画合同協議会 設置要綱

2. 挨拶

(中国圏広域地方計画協議会 山下会長)

(四国圏広域地方計画協議会 千葉会長)

3. 議事

1) 中国圏・四国圏広域地方計画について(資料説明後、意見交換)

(萩市)

○観光に来る人は、1点だけに来的のではなく、必ず周辺の地域、1つのテーマ、あるいは地域的なつながり等を見ながら観光に来られる。

○萩市では、平成 27 年7月に世界遺産の登録をいただいたが、今までの単発的な世界遺産ではなく、明治時代の産業革命遺産、近代化という1つのテーマで8県 11 市 23 遺産が連携する形。

○中国、四国地方の伝統的建造物保存地区や歴史的風致地区において、横の連携があればよいと思う。

○会議資料にもそういう主旨の記載があるが、具体的に補強いただければ、さらにいろいろな意味で連携が深まっていく。

(松江市)

○インバウンドでは広域での連携が重要。

○平成 27 年3月に中国やまなみ街道が全線開通。中国、四国地方を南北に周遊可能となった。

○国土交通大臣認定の7つの広域観光周遊ルートのうち、中四国は瀬戸内海を中心としたルートが認定。さらに、山陰、山陽、四国を南北に周遊するルートの形成が必要。

○現存する6つの天守閣など重要な資源をもとに連携を進めていく必要がある。

○山陰、山陽、四国を周遊する広域観光周遊ルートの形成・認定には、関係自治体、経済界の連携が必要。

(安芸太田町)

- 中四国圏域の中で原料を生産し、加工する仕組みづくりをもっと具体化していく必要がある。
- 南海トラフ地震時に中四国圏域の中で互いに支え合う大きな仕組みが必要。
- 具体化に向けて、どういった組織が役割をはたしていくのかを更に詰めていかなければならない。

(島根県)

- やまなみ街道が開通し、四国から島根県に来られるお客様が非常に増えている。縦のルートを使った観光交流を進めていく必要がある。
- 中国地方においては外国人観光客誘致の強化に向けて、来年度新たな連携組織を立ち上げる。瀬戸内と山陰を縦のラインで結んだ誘客を強化し、中国地方への更なる誘客、周遊の促進を図る。
- 山陰両県においても、来年4月、DMO 設立に向けて準備中。外国人観光客の誘客を進め、山陰ブランドを確立していく。
- いろいろな組織が、有機的に連携して、日本海から瀬戸内海、太平洋という3つの海を結ぶ魅力的な観光ルートを作り上げていく。
- 国宝の松江城など個々の魅力もアップして、外に向けてしっかり情報発信していくことが重要。
- 防災面で、中四国9県で広域支援に関する協定を既に締結。昨年1月には図上訓練も実施。
- 中国地方知事会では広域防災部会を設置。「大規模広域的災害発生時の連携と調整」「その他原子力災害を想定した連携と調整」「防災担当職員の人材育成」について、3つのワーキンググループで検討。四国地方との支援、受援体制も検討。9県で結んでいる協定の記載内容を具体化することが今後の主な検討テーマ。
- 広域防災部会を通じて、万が一の大規模広域的災害が発生した際の的確かつ迅速な支援が実施できる必要がある。
- 資料について、ソフト的な取組が中心になっている中で、合同庁舎の整備推進は少し異質。連携テーマの人づくり、地域づくりの推進は、具体性がないように受け止めるので工夫が必要。

(岡山県)

- 広域的な観光や防災面は、地域の連携が非常に重要なこと。
- 特に 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本全体でインバウンドが増えると思うが9県が連携して観光客を取り込む必要あり。
- この地域には豊かな瀬戸内海がある。環境保全で岡山県は、本年度海岸漂着物や海底ごみといった海ごみ対策を推進するための計画を策定。総合的に対策を推進しているが、関係府県が共通理解のもと広域的に取り組むことが大事。瀬戸内海海ごみ検討会等をつうじて連携強化を図っていきたい。

(広島県)

- 瀬戸内7県で、平成 25 年4月に瀬戸内ブランド推進連合を設立。瀬戸内の多彩な資源を活

かしたブランド構築に取り組んでいる。

- 外国人観光客にとって、県境は関係ない話。観光振興を図っていく上で、中国四国地方の各地の魅力ある観光資源をつないで誘客を図っていく広域観光が重要。
- 瀬戸内のブランド化を図っていくため、官民連携と地域間連携のプラットフォームの役割を担う、日本版 DMO、一般社団法人せとうち観光推進機構に来年4月移行予定。ブランド構築に向けた推進体制の牽引役として、戦略的なプロモーションをせとうち観光推進機構が展開。観光プロダクトの供給という面で民間企業等がテーマ別に部会を構成。金融機関等から資金面をサポート。観光需要の創出と観光関連プロダクトの供給体制の整備を一体的に展開。
- 広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」に加えて、さらにエリア内の太平洋あるいは日本海への周遊につながるような連携を図っていきたい。国をはじめ皆様方には引き続きご協力をお願いしたい。
- 防災面では中四国のカウンターパート制による体制を構築。今後、取組をさらに進化させるため、中国5県の連携を図りつつ、四国4県と協議を進めたい。
- 南海トラフ地震の発生とそれに伴う津波といった大規模災害発生の際は、県同士だけでなく、国と地方を含めた一層の連携が必要。
- 複数の県が同時に甚大な被害を被る際、県単位を超えて圏域単位でどのように連携していくのか、あるいは中国圏と四国圏、圏域相互もどのように連携していくのか、体制の構築について検討が必要。

（山口県）

- 平成 30 年の明治維新 150 年に向け、大型の観光キャンペーンを実施。平成 29 年にはDestinyネーションキャンペーンの開催も予定。平成 27 年8月には明治維新ゆかりの4県で平成の薩長土肥連合を設立。取組を通じて、地域の資源を磨き上げ、中四国全体が連携し、エリア全体の魅力を向上。

（徳島県）

- 信頼性の高い交通機能・空間機能の確保という点で、四国新幹線が重要。首都機能をバックアップする二眼レフ構造といった点で重要。
- 道路でいうと、トラックによる物流は、九州～近畿間を中国圏域ルートと四国圏域ルートとでリダンダンシーができています。
- 四国新幹線も山陽新幹線のリダンダンシーという点で重要。そういう視点も考慮を。

（香川県）

- 中四国の国内でのポテンシャルがよく分かる資料となっている。
- 単独の県では不可能なことを連携して可能とすることは重要。
- 特に観光の面では、瀬戸内国際芸術祭などで海外からのお客様を迎え入れ、中四国にもっと足を伸ばしていただく広域観光の充実が大事。
- 各県の様々な産業においては、もっと磨きをかけ、地域間での競争ばかりでなく、連携という形で、今後の TPP の関係も含め、国際的な競争力が大事。
- 地方創生に取り組んでいる中で、一番大事なのは人づくり。いろいろな観点で、中四国は首都圏に比べて人材が薄い。キーマンとなる人がいるといろいろな分野で対策なり施策が伸びていく。キーマンを作り出したり、来ていただくことも含めて人づくりを優先。国、県含めて

協力を。

(愛媛県)

- 中四国の連携施策の1番目に広域観光、インバウンドの促進が入っていることは大賛成。観光客にとって、圏域、県境は関係ない。いかに魅力的なものを売っていくかということ。広域観光が最も中四国で連携しやすく効果のあるテーマ。
- 昨年、広島県と共同で瀬戸内しまのわ2014というイベントを開催。来場者588万人、経済効果197億円。愛媛県単独ではこれだけの効果はなかったと思う。観光面での連携はこれまで以上に重要。
- 留意点として、どの客層にどういうプロモーションをするか、認可NPOや企業にいかに参画いただくかが重要。
- 防災の面でも連携は重要。役所同士の協定がベースになるが、民間企業、住民の協力は不可欠。
- 中四国の住民、県民の交流を日頃から進めておくべき。広域観光ルート巡りや文化交流イベントの共同開催によって、地元、中四国への愛着が増し、災害時にも効果的な対応ができるのではないかと考えている。

(高知県)

- 高知県は来る南海トラフ地震対策ということが念頭にある。
- カウンターパート制の支援体制について、今後、支援・受援の具体的な手続きを実効性のあるものとするため、カウンターパートの県の訓練等を通じ、お互いが顔の見える関係を構築していくことが大事。
- 連携の協議会の中で仕組み作りなども議論いただければと思っている。
- 広域観光、インバウンドについては、太平洋、瀬戸内海、日本海という3つの個性ある海の周遊ルートを構築し、中四国が連携しながら取り組むことが重要。各地の観光資源の保全も重要な課題。
- 高知県では、ファインバブルによるクラスター形成を目指しており、県内の産学官によるプロジェクトチームを本年度設置。加えてファインバブル地方創生協議会のような広域連携の取組も生まれてきており、今後、国の関係機関にも関与していきたい。

(広島市)

- 両圏域が緊密に連携し、多様で活発な交流を生むことが重要。
- 資料にも紹介されている瀬戸内4県都市長会議については、岡山市長の発案により、それぞれの地域において中心的役割を担う4市がお互いの長所を生かし、相乗効果を発揮できる分野に連携して取り組もうと発足。平成27年10月に意見交換を始めたところ。
- 例えば、4市を巡る瀬戸内海周遊クルーズの設定や、鉄道・高速道路・海路を組み合わせた観光ルートの設定、プロモーションの共同実施といった連携施策が考えられるところ。また、広島市立大学芸術学部に依頼し、4市の連携した取組を象徴するエンブレムを作成することも検討。
- 広島市では、今年度末までに地方版総合戦略を作成する予定であり、こうした4市連携の取組も盛り込む予定。
- このような都市間の連携が、両圏域の様々な地域で活発に行われることにより、両圏域全体がローカルに輝く圏域として更に発展するのではないかと考えている。

(岡山市)

- 瀬戸内4県都市長会議の取組は、まさに中四国圏の連携であり、競合しない補強関係となるような取組を実践していきたい。
- 岡山市は、来年度、瀬戸内国際芸術祭に併せて岡山国際現代芸術祭を中心市街地で開催予定。また、周辺市町8市5町で連携施策に取り組んでいる。
- 10月30日に総合戦略をとりまとめ、広域連携の取組も盛り込んでいる。今後も中四連携の取組を活発に取り組んでいきたい。

(鳥取県)

- 四国と同様に山陰も新幹線の空白地帯になっている。広域観光や物流の関係において、インフラの問題が両圏域の共通の課題。
- 例えば、高速のミッシングリンクや暫定2車線が、防災や広域観光、人づくりにおいて、非常に影響してくるなど、インフラが交流全般に関わってくる。

(中国地方商工会議所連合会)

- 中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会は、島根、広島、愛媛、高知4県の商工会議所と経済同友会、経済連合会等44の経済団体で構成。主要な活動は、幹線道路網整備の要望活動。
- 広域観光、物流はもちろん、南海トラフ地震等想定されている中四国地方において、災害に強い道路ネットワークの形成を強く求めている。

(中四農政局)

- 一昨年、和食がユネスコの無形文化遺産に登録。先日行われたミラノ博覧会でも和食は非常に人気。インバウンドでは、ルートや観光施設の話があるが、それぞれの拠点で食事をされる。各地域に根ざした郷土料理。地産地消、6次産業化という中で、ストーリーだと思うのでうまくかみあわせていただきたい。
- 今、厳しい中山間地域の活性化にもつながるような切り口を具体化していくことが大事。
- 各地域に埋もれている資源を掘り起こし、磨いて宝物にして紹介することが大事。各地域が単発でやっても難しいので、観光ルートと美味くリンクさせる視点を具体的に検討していただきたい。
- 中国地方、四国地方は中山間地域という非常に厳しいエリアがあり、県境あたりの厳しい集落での防災減災対策についても関係各県、国が連携を取って進めていきたい。
- 先日の中国知事会で、鳥インフルエンザについては圏域を越えた体制ができたと聞いている。危機管理という視点で、今後具体化する中で検討していただきたい。

(事務局)

- 本日頂いた意見は、中国圏、四国圏の各事務局が持ち帰り、咀嚼し、先月いただいた市町村提案も踏まえながら計画原案を作成してまいりたい。
- 来年、両圏域で開催を予定している協議会において、計画原案をとりまとめていきたい。

(四国圏協議会会長)

- 本日いただいたご意見を今後、両圏域の広域地方計画に反映すべく、それぞれ調整してい

きたい。

- 私自身、予想されている南海トラフ地震への対応の強化が重要な課題と考える。イベントなり、日常の取組での人的交流を常にやっておくことで、いざという時の危機対応にも実効が上がるという話は、非常に興味深く、まことにそのとおりと思った。
- 四国地域では、(中国圏の山陰側について、鳥取県からも一部、話のあった)新幹線の導入、あるいは高速道路の8の字ネットワークなどは基礎的なインフラとして重要と考えている。産業あるいは広域観光、防災という面で、四国圏のみならず中国圏の発展にも大いに役立つと確信している。
- 中国圏四国圏それぞれの今後の整備計画の中では、地域の実情に応じた形で、いただいた意見を反映させていきたい。

(中国圏協議会会長)

- 今日は連携テーマの中でも、特に広域観光・インバウンド観光と防災の発言が多かった。それ以外の点についても具体的な要望があったと承知している。
- 各県・市からの地域で取り組んでいることへの具体的な要望は、国として地方計画を進める上で非常に参考になるのではないかなと思う。今日の発言内容を取り込んでいただき、計画を作る際にさらに充実したものにしていただければと期待している。

2) その他 今後の進め方について

(事務局)

- 中四国の連携については、その内容が非常に重要であること、8月にとりまとめられた全国計画の中でも検討することが謳われていることを踏まえ、両圏域が揃って協議するという形で意見を賜った。
- 今後の広域地方計画については、中国圏、四国圏がそれぞれ作るということになっているので、本日いただいた意見をそれぞれの事務局が咀嚼し、相談しながら、併せて市町村提案を加味して原案を作成し、来年予定しているそれぞれの協議会の場でさらにご意見を賜ることになる。

(中国運輸局長) 挨拶

(中国地方整備局長) 挨拶

(四国運輸局長) 挨拶

(四国地方整備局長) 挨拶

4. 閉会